

報告 3

『一人』を大切に！

地域ぐるみ、そして市を超えた広域での取り組み

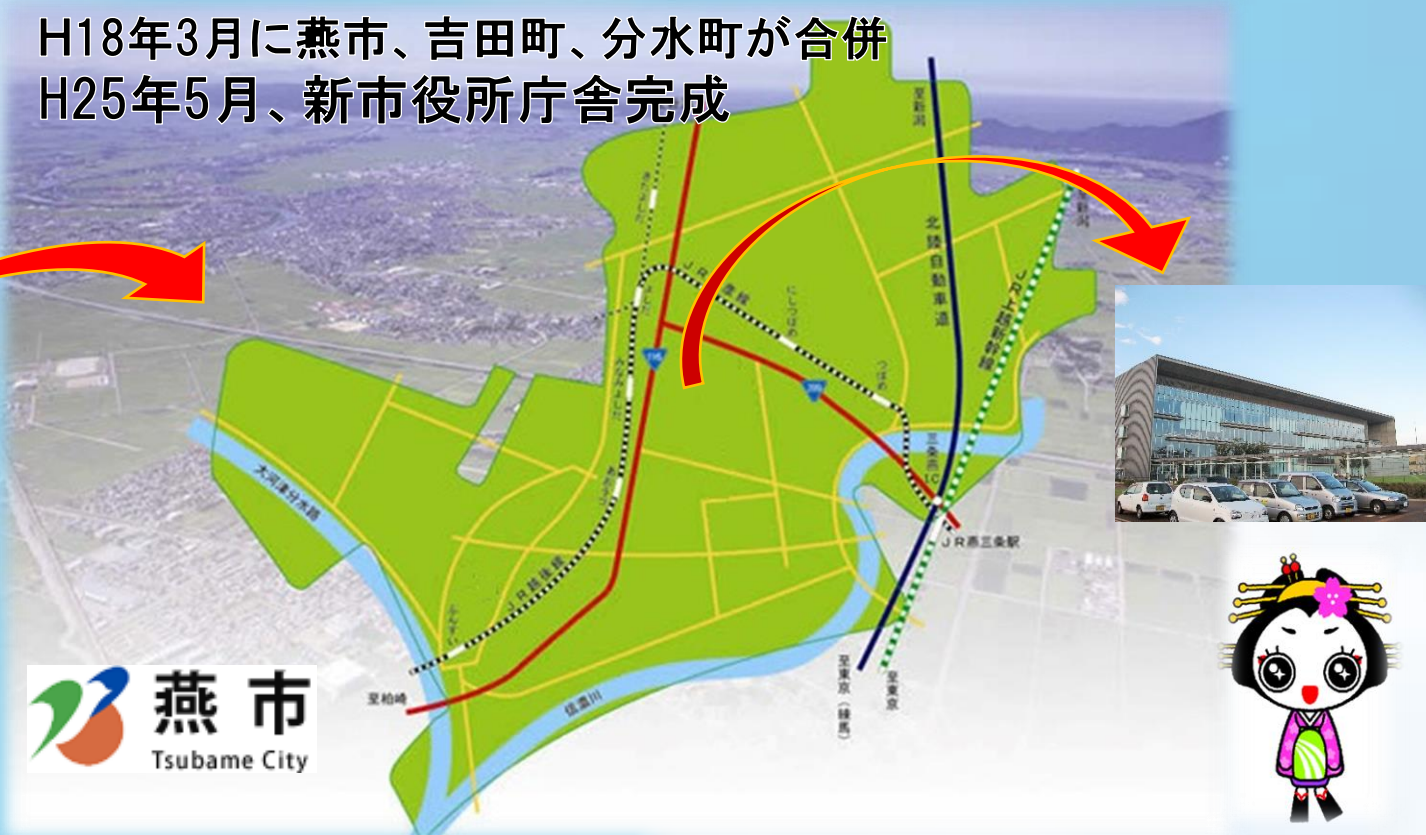
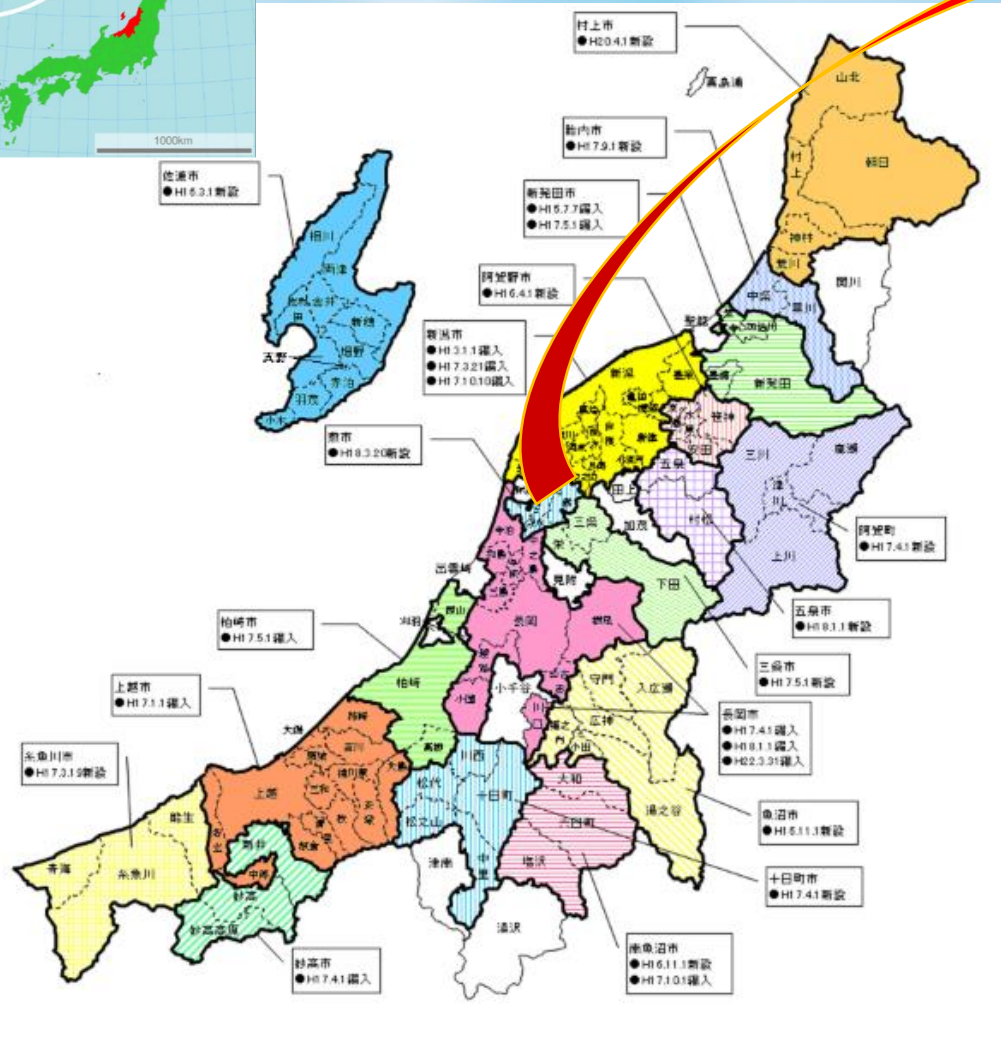
～行きたいところに安心・安全に出かけられる地域を共に作る～

2019.12.09 東京都千代田区 有楽町朝日ホール

認知症になっても安心して外歩きを楽しめるまちづくり全国フォーラム2019

新潟県 燕市の紹介

H18年3月に燕市、吉田町、分水町が合併
H25年5月、新市役所庁舎完成



燕市
Tsubame City



ノーベル賞授賞式晩餐会で使われるカトラリー、金属加工、桜の名所...



燕市の状況

R元年8月末

人口	79,312人
世帯数	29,687世帯
面積	110.96km ²
65歳以上人口	24,167人
高齢化率	30.4%
日常生活圏域	4圏域
地域包括支援センター数(すべて社会福祉法人への委託)	4か所
推進員の配置(専任:H26年4月社会福祉法人への委託) H28年1月から燕市役所に出向	1人
65歳以上の要介護認定率	18.6%
要介護(支援)認定者数	4,482人
認知症日常生活自立度Ⅱa以上 (H30年3月末)	2,871人

認知症地域支援推進員（推進員）として

推進員：認知症施策、地域支援体制づくりの推進役



やらなければならないことが山積してありますが、
行方不明をなくし安心して外出できるための
「個の支援」、そして「地域全体の体制づくり」を
最優先課題として取り組んできました。

推進員としての活動

～初め(2014年度)に立てた計画(抜粋)～

地域支援体制の整備

- ① 支援ネットワークの構築
- ② 地域ケア会議への参加
- ③ 認知症カフェの開催
- ④ 研修会・事例検討会の開催
- ⑤ 専門性を活かした個別支援
- ⑥ 「認知症の人と介護者のつどい」の開催
- ⑦ **認知症の人の見守り・声かけ・搜索訓練の実施**
はいかいシルバーSOSネットワークと協働して、
燕市内3地区での見守り・声かけ・搜索訓練を行う。

初年度 認知症の人の見守り・声かけ・搜索訓練の開催に向けて 1

(2014年度)

◎先進地域に学ぼう

第1回市民セミナー 講師:福岡県 大牟田市役所 池田武俊氏

- 認知症になっても安心して暮らせるまちづくり
- 一朝一夕にはできない ⇒ 今年は無理(°Д°)ノ

※カタチだけまねても、地元のためにならない

※基盤にある認識、取組み方の厚みに大きな違いがある

ちょうどその頃、地元で

★ 若年性認知症の人の交通死亡事故

㊦ 包括として、推進員として、個人としても関わりのある人

○ 支援の振り返り、できることが有ったのではないか？

見えてきた様々な課題

★ 認知症になったことを知られたくない思い

☆ 認知症についての理解があるまちへ

☆ 地域全体で見守りの出来る地区へ

今、できることは？

なんとか、燕市でも「生きた取組み」にしたい

→現地に行って学ぶ：たくさんの気づきを得る

大牟田市第11回徘徊SOSネットワーク模擬訓練（白川小学校区）に参加



初年度 認知症の人の見守り・声かけ・搜索訓練の開催に向けて 2

(2014年度)

住民主体で開催できるように、つながりを活かして

◎ **小学校の登下校を見守るコミュニティ活動とのコラボレーション**

*** 所属包括と関係性を築けていた、まちづくり協議会の主催で**

*** 協議会内の『子ども見守りボランティア』を主対象に**

◎ **事前説明を兼ねたサポーター養成講座⇒会場周辺で1時間程の
声かけ訓練、2日間での開催**

◎ **『探す』よりも『備える、防ぐ = 声かけ』を焦点に**

● **次の開催に繋がる仕掛け**

**市全域での開催に展開するように、全地区の包括、キャラバンメイトと
認知症サポーターにも参加を呼びかけた**

◎ 2日間の**延べ**参加者数 112人

* 協議会役員：10人 子ども見守りボランティア：18人
一般参加者：42人

* 関係機関・施設職員など：42人

全包括＋広域で活動できるケアマネ、キャラバンメイト

* 警察の参加なし 消防は見学のみ

* 広報 新聞報道 = 2社 TV = 1社 (NHK関甲信越)





認知症の人に見られる様子の一例

危うさ、困っている様子、不自然な行動

- 道路の真ん中を歩いている
- 周囲をキョロキョロ眺めている
- 車が来ていても、赤信号でも道路を渡ろうとする
- 同じところを行ったり来たり、何度も歩いている
- 道端に座り込む、お店などの入口に立ちつくす

- 何度も何度も、いろいろな人に道を聞いている
- 夜中や早朝に、一人でもくもく歩いている
- パジャマで外出など、身なりが整っていない
- はだしやスリッパ、右と左でちがう はき物
- 寒いのにうす着、暑いのにあつ着
- カサなしで、雨の中を歩いている

※一人での対応が難しい、うまくないと感じたら、時間を置く、近くの人に応援を頼むのも方法です



見守りつばめ あんしんカード

認知症の人へかかわる時の心がまえ
～さりげなく、自然に～

- ① おどろかせない
- ② 急がせない
- ③ 心をきずつけない



小学生の皆さんへ 「こわい、むずかしい」と感じたら無理をしないで、先生やお家の人、お店の人などに知らせましょう

こまっている認知症の人を見かけたら・・・

- 見かけた時間と場所は？
- 男の人？女の人？ 服や持ち物は？
- どんなふう困っていましたか？

警察署：110 燕警察：94-0110

怪我・体調不良があれば救急車：119

燕市役所 長寿福祉課 地域支援相談係 77-8157

2年目 見守り・声かけ訓練の拡大と強化

(2015年度)

◎ 包括中心での開催

- ・ **包括同士の協力体制**・・・市内3カ所での開催（208人）
- ・ 見守り・声かけから、搜索・通報へと発展

◎ 地域の状況に応じた開催

- ・ 住民主体と包括主体、WinWinの関係性
- ・ 参加し易い日時の設定

◎ 推進員は相談役

- ・ 情報提供やアドバイス、関係機関とのコーディネート

◎ **燕市高齢者等見守り事業の検討開始**

- ・ 広域に渡る情報伝達と、帰れなくなる心配のある人の事前登録制度

包括との連携・・・

3～4年目 見守り・声かけ訓練の定着・拡大

(2016年～2017年度)

◎ 包括中心での開催

- ・市内4か所（362人）、7か所（406人）での開催、
『訓練』から『体験』へ

◎ 実際に有った出来事を伝える

- ・訓練直後、道に迷っていた認知症の人に市民が気付き、自宅へ送る
- ・「訓練で学んだ知識があれば、救えた命があった」

◎ 推進員は何でも屋

- ・認知症の人の役、認知症の人ではないけど、ちょっと似ている人

◎ 燕市高齢者等見守り事業の開始

- ・おかえりつばめ～ルの配信と事前登録制度の開始

おかえりつばめ〜ル事前登録

「おかえりつばめ〜ル」とは・・・

高齢者の方などが行方が分からなくなってしまい警察に捜索願を出された際、協力者である「おかえりサポーター」の目撃に、行方不明になられた方の情報をメールでお知らせして、見守りのご協力をいただくものです。
※メールで送る情報は、本人や家族から「この情報は流してもよい」と了解を得た情報のみになります。



「おかえりつばめ〜ル」には事前登録制度があります。

行方不明になる前にその可能性のある方の情報を前もってお知らせいただくことで、

- 地域での見守り体制を構築するなど、行方不明になるリスクを減らす対策がとれる
 - 前もって「探す情報」「戻さない情報」を確認しておくので、行方不明になった際に「おかえりつばめ〜ル」での情報伝達を迅速に行うことができる
 - 発見された際の、本人確認にかかる時間を減らすことができる
 - 杖・傘や靴などに貼る「登録者ステッカー」の配布を受けることができる
- といったメリットがあります。

登録者ステッカー



申請後、決定された登録番号を油性ペンなどで記載し、傘・杖・カバンや靴のかかと部分などに貼り付けて使用します。行方不明になった際に「〇〇番のステッカーを貼った方」といった目印にしたり、発見時の本人確認、警察からの見守りに活用いただけます。反射材できているので、夜間の事故防止にもなります



「おかえりつばめ〜ル」を配信しています

行方のわからなくなった認知症高齢者などの情報を

「おかえりサポーター」の監視へメールでお知らせいたします



メールを受け取ったら・・・

- 今いる場所の周りを見渡す
- 家の窓から外の道路や庭を見してみる など

無理のない範囲での捜索活動にご協力ください!

おかえりつばめ〜ル登録方法

- ① 燕市役所長寿福祉課窓口・各地域包括支援センターに申請書提出
 - ② 携帯・スマートフォンから空メールを送信して、登録する
- その他、企業・団体などで一括して申し込む場合は長寿福祉課担当までご相談ください。

登録するだけで・・・
あなたも「おかえりサポーター」!



ひとりの力は小さくても、
合わせれば大きな力に。
皆さまのご協力
お待ちしております。

お問い合わせ

燕市 健康福祉部 長寿福祉課 地域支援相談係
TEL: 0256-77-8157 (直通)
FAX: 0256-77-8138

おかえりサポーター



燕市認知症高齢者等見守り事業



燕



一が一朱州小市



業専心守見守者備高歳咲臨市燕

燕市オレンジだより No.5

オレンジだよりは燕市の認知症総合支援事業の広報誌です

H29年度の取り組みをご紹介します

2018年3月31日発行

燕市認知症地域支援推進員
T 059-0296 燕市青田西太田 1054
燕市長寿福祉課内
0256-92-1111 (内線 2562)

オレンジングカフェ

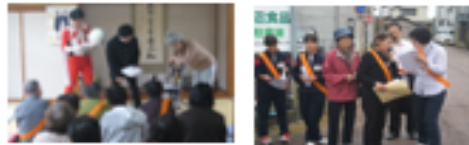
燕市役所で開催するオレンジングカフェ今年度は関係機関からテーマに沿った講演をいただきました。会場からの質問やご相談にも答えて頂き大好評でした。ご協力をいただき、ありがとうございました。年間141人がご来場されています。ご来場ありがとうございました。



	東区	支那	不支	合計
燕地区	0	1	2	3
青田地区	0	2	0	2
分水地区	3	2	0	5
計	3	5	2	10

市役所以外の参加人数は把握していません

声かけ・接遇訓練、体験



平成28年度に分水地区での開催から始まった認知症の人の見守り・声かけ、検索体験・訓練。今年度は下記の通り5か所での開催に合計240人がご参加くださいました。初年度からの運営では18回の開催に、自治会をきめた80以上の団体から929人が参加されています。認知症になっても安心して外出できるまちづくりに、多くの人達が力を合わせてくださった成果と言えるのではないのでしょうか。今年度の特典として、児童生徒の参加が増えた事と、介護施設などで働く専門職以外の市民の方々がスタッフとして参加くださったことが挙げられます。



地区	会場	分水	東	支	支
青田	7月1日(日)	10月6日(金)	10月21日(土)	11月11日(日)	11月11日(日)
内 容	声かけ	声かけ・訓練	検索	検索	声かけ・訓練
場 所	青田地区	分水地区	東山地区	支那山地区	支那山地区
主 催	青田地区自治会	分水地区自治会	東山地区自治会	支那山地区自治会	支那山地区自治会
参加者	人数	人数	人数	人数	人数
10月6日(金)	12	18	22	22	22
10月21日(土)	2	12	12	12	12
小 計	24	30	34	34	34
合 計	人数	100	人数	140	人数



団体登録いただいた事業者へお送りするステッカーです

行方のおからなくなった認知症患者などの情報を「おかけいびき」のステッカーへお送りして知らせる仕組みです。

事前登録とは、1人で出かけて帰れないなどの心配と書いたり、おかけいびきステッカーを貼ったり、おかけいびきの仕組みに役立つ情報を事前に登録しておく制度です。

おかけいびき

★情報発信回数 1回
★おかけいびきサポーター (個人) 121人 (団体) 9団体
延べ人数 約800人
★事前登録者数 9人 (平成28年2月現在)
ご協力ありがとうございました

通信を通じて、
取り組みの内容、データ、
住民さんたちの活躍ぶり、
知ってほしい情報等を、
わかりやすく発信しています。

5年目

(2018年度)

見守り・声かけ訓練の定着・拡大・広域化

◎ 隣接市村との共同訓練（2市1村） ★日頃からの問題提起と提案

・県高齢福祉保健課、県警（本部 所轄署）、J R、自治体、推進員

・情報伝達経路の確認

* おかえりつばめ～ルの運用マニュアルの整備

⇒ 他自治体との連携 対象となる家族へのフォロー 緊急時の運用

◎ 包括中心での開催 5箇所（226人） 5年間で延べ1,228人

・包括業務の負担増大

◎ 地域の状況に応じた開催

・屋内での開催

・参加者 専門職≧市民 ⇒ 市民≠参加者

市民が、様々な形でスタッフとして活躍する地区も増えてきた

6年目以降 見守り・声かけ訓練・体験会の行く先

(2019度)

◎ 隣接自治体との協同

- ・情報伝達整備後の状況確認、他の隣接市町村へのアプローチ

◎ 見守り事業の振り返り

- ・事前登録制度の定期的な状況確認：一人ひとりの変化・現状は

◎ 地域に応じた企画・立案

- ・その地域に応じた形態・規模と内容

◎ ネットワークを活かした取り組み

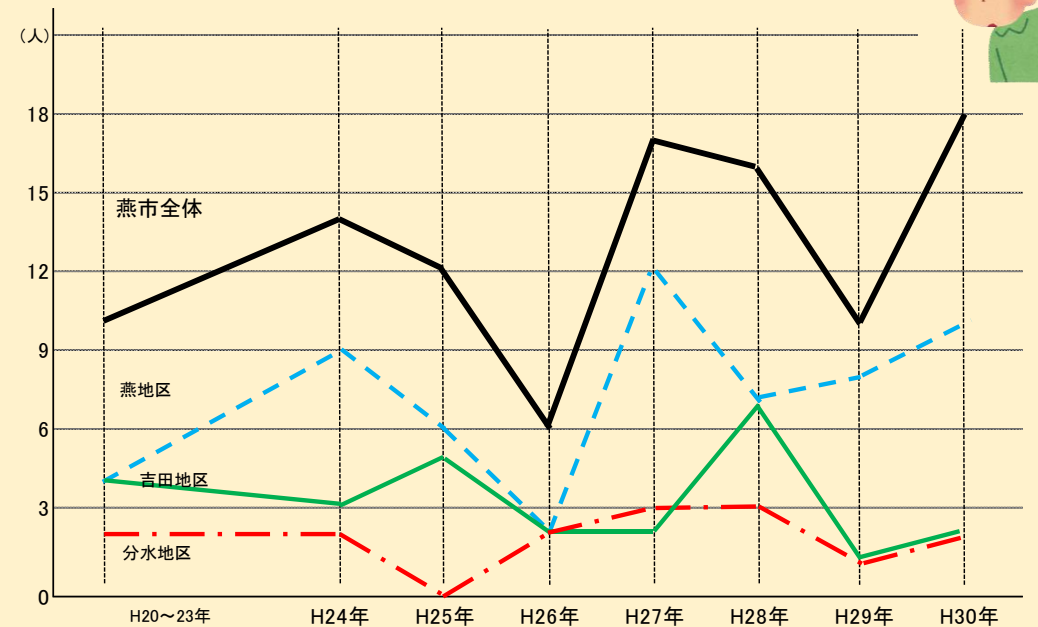
- ・見守り以外での活用、生活ニーズに応える取り組み、さりげない見守り

2018年(平成30年) 燕市の行方不明者の状況

新潟県警察 燕警察署 はいかいシルバー-SOSネットワーク 連絡票より

No.	月日	行方不明となった時間	行方不明となった場所	行方不明となった人			発見(解除)時間
				住所地	性別	年齢	
1	1月1日	午後12時30分頃	親せき宅	燕中学校区	女	80代	同日14:50発見
2	1月7日	午後3時30分頃	外出先	燕中学校区	女	70代	同日17:20発見
3	2月15日	前日午後4時頃	自宅	小池中学校区	女	80代	翌日8:50発見
4	4月1日	前日午後8時～翌朝8時頃	自宅	分水中学校区	男	70代	同日14:10発見
5	4月4日	午後1時頃	自宅	燕中学校区	男	90代	同日22:50発見
6	5月3日	前日午後11時頃	自宅	燕中学校区	女	70代	未発見
7	5月21日	午後4時頃	自宅	燕中学校区	女	80代	同日20:20発見
8	7月6日	午前8時頃	自宅	燕北中学校区	女	10代	同日19:20発見
9	7月16日	午前9時45分頃	自宅	燕中学校区	男	80代	同日13:18発見
10	8月15日	午後4時30分頃	自宅	燕中学校区	男	90代	同日18:00発見
11	8月26日	午後5時頃	自宅	吉田中学校区	男	80代	翌日14:38発見
12	9月6日	午後1時頃	非公開	非公開	男	80代	翌日7:58発見
13	9月17日	午後1時30分頃	外出先	吉田中学校区	女	90代	同日16:20発見
14	9月22日	午前8時頃	自宅	分水中学校区	女	70代	翌月13:50発見
15	12月23日	午後8時15分頃	新潟市南区	燕中学校区	女	70代	翌日0:50発見

行方不明者数の推移(H20～30)



行方不明者数の推移(H20～30)

燕市分水地区地域包括支援センターに残る、燕警察署 はいかいシルバー-SOSネットワーク 連絡票より

燕地区	男	女	計	分水地区	男	女	計
H20～23年	3	1	4	H20～23年	2	0	2
H24年	1	8	9	H24年	1	1	2
H25年	4	2	6	H25年	0	0	0
H26年	1	1	2	H26年	1	1	2
H27年	5	7	12	H27年	3	0	3
H28年	3	4	7	H28年	0	2	2
H29年	4	4	8	H29年	0	1	1
H30年	3	7	10	H30年	1	1	2
計	24	34	58	計	8	6	14

吉田地区	男	女	計	燕市全体	男	女	計
H20～23年	3	1	4	H20～23年	8	2	10
H24年	2	1	3	H24年	4	10	14
H25年	5	0	5	H25年	9	2	11
H26年	2	0	2	H26年	4	2	6
H27年	1	1	2	H27年	9	8	17
H28年	3	4	7	H28年	6	10	16
H29年	1	0	1	H29年	5	5	10
H30年	1	1	2	H30年	5	9	*15
計	18	8	26	計	50	48	99

* 地区非公開 1人

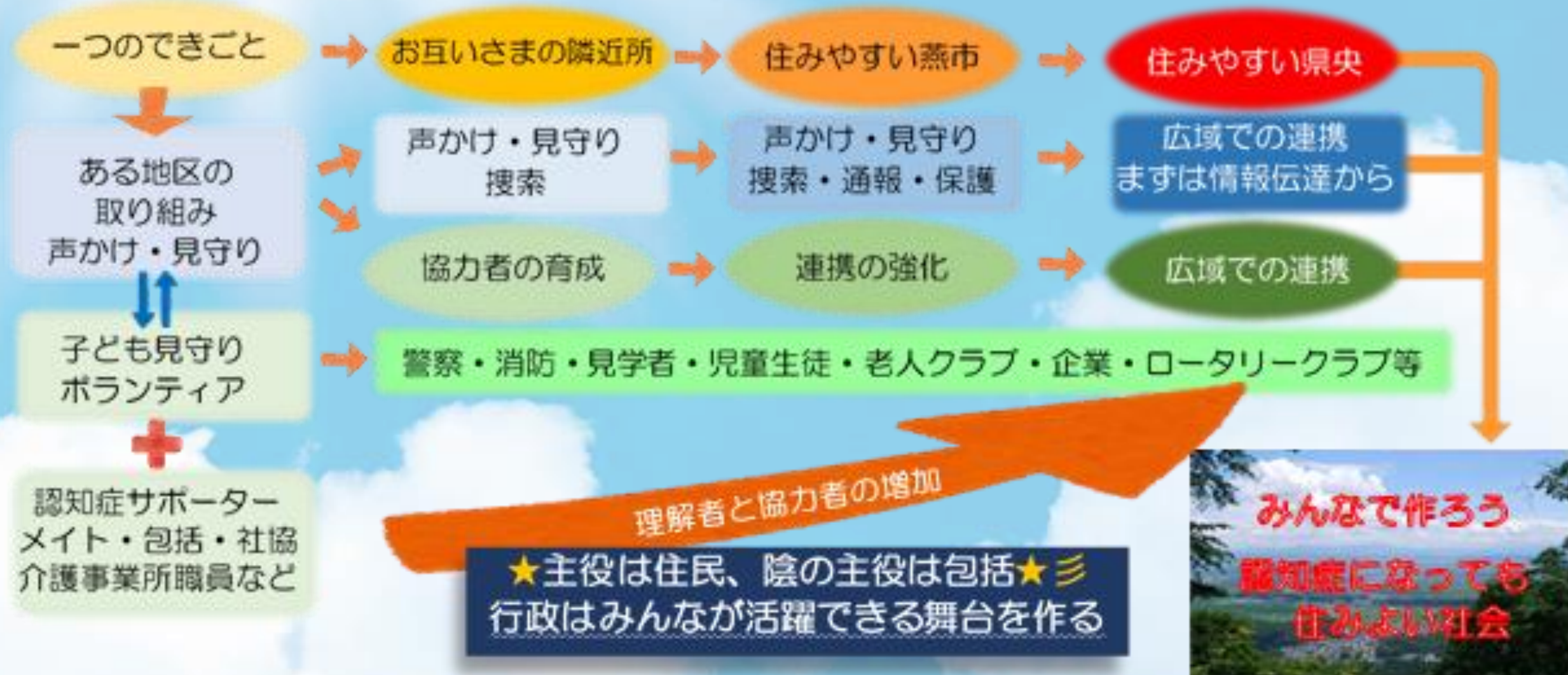


はいかいシルバー-SOSネットワークは、行方が分からなくなった認知症高齢者などの早期発見・保護とその後のケアを目的に、警察と消防、市役所、地域包括支援センターなどの関係機関やバス・タクシー介護施設、新聞店、ガソリンスタンドなどとネットワークを構築し、認知症高齢者などが行方不明にされた時に、ファックス等で情報を共有し、早期発見を目指す仕組みです。



全国の警察に届け出があった、認知症かその疑いがある人の行方不明者は平成30年の1年間に16,927人となり、前の年を1,064人上回りました。統計を取り始めた平成24年以降、毎年増加し、過去最多を更新し続けています。新潟県内では180人で所在確認できた人が178人、そのうち19人が亡くなられていました。

『個から地域全体』への進展状況～模擬訓練を通じて～



最後に・・・

◎ 連携・協力体制の構築

- ・一人では出来る事は殆どない、困ったら声を上げる
- ・自分ごと、身近なこととして考えらえるできごとの提示⇒共感・共有
- ・意識して作ったネットワークと自然に出来たネットワークの活用
- ・話やすい雰囲気、何気ない会話
- ・「受け身」の有効性
- ・予定や連絡先をオープンに

★「訓練で学んだ知識があれば、救えた命があった」 (参加者の声)

◎ 市在住の本人の声と意思が紹介された新聞記事

新潟日報 平成31年1月31日号 見開き

- * 診断された本人が、思いを発信できる
雰囲気が、燕市にも生まれてきています。
- * 模擬訓練以外にも、たくさんの歯車が
絡まりあいながら、燕市の取組は、
今日も変わり続けています。

